

令和6年2月議会定例会議案

市長提案理由説明要旨

(令和5年度分追加その2)

(令和6年3月26日提出)

新潟市

本日提案いたしました議案の概要につきまして、説明を申し上げます。議案第198号は、佐野藤三郎氏を新潟市名誉市民に選定することについて、お諮りするものです。

佐野氏は、旧石山村、現在の東区の生まれで、昭和30年から、約40年にわたり亀田郷土地改良区理事長を務められました。農業をはじめ、まちづくり、国際交流などの分野において功績が顕著であり、本市の発展に多大な貢献をされた方であります。

農業の分野においては、かつて「芦沼」や「地図にない湖」と呼ばれ、胸や腰まで水に浸（つか）って農作業していた湿田を、日本有数の穀倉地帯に変えるため、多くの土地改良事業に取り組み、本市の農業の発展に大きな功績を残されました。

昭和39年に発生した新潟地震からの復興にも力を尽くされ、被災した農地や施設の復旧、親松排水機場の整備促進などに取り組みられました。

佐野氏による排水改良の取組は、海拔ゼロメートル地帯が広がる本市において、市民の安心安全の確保という面でも、大きな功績となっています。

まちづくりの分野においては、昭和の中頃から、都市化の急速な進行を背景に、農地転用が急増していく中、土地利用計画の策定や調整などを担う新たな組織を創設し、都市の発展と農業の健全な調和に向けて、農村と都市が共に発展できる地域づくりに取り組みられました。

こういった理念は、現在の、都市と農業が調和する新潟市につながっており、県・市・亀田郷土地改良区の三者が進めている「鳥屋野潟南部 開発計画」に受け継がれるなど、本市のまちづくりにも大きな影響を与えました。

国際交流の分野においては、中国政府からの、黒龍江省に広がる三江平原（さんこうへいげん）の農業開発への協力要請に対して積極的に協力し、中国の大食料生産基地の実現に向けて奔走されました。

この中国での取組を契機に、「新潟県日中友好協会」や「日本海圏 経済研究会」を設立するなど、環日本海を軸とした経済交流の流れを作り、本市の国際交流の先駆者として、大きな功績を残されました。

このように、広い分野で功績が顕著であったことから、佐野氏が亡くなった後も、「食の新潟 国際賞財団」による「佐野藤三郎記念 食の新潟国際賞」の創設や、市内の経済団体などが様々な顕彰活動に取り組むなど、佐野氏の功績を称える取組が広く行われてきました。

また、昨年11月には、市と市議会に対し、名誉市民称号の授与に関する要望が提出されたことから、今年1月に、新潟市名誉市民選考委員会を開催したところ、委員である有識者の皆さまから、全会一致をもって、「佐野氏は、名誉市民に相応しい方である」とご判断いただきました。

これらのことを踏まえ、佐野藤三郎氏を新潟市名誉市民に選定するものです。

以上、提案いたしました議案について説明申し上げます。
よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。